

新山協ニュース

△ 発行者 平田 大 六 △ 発行所 新潟県山岳協会
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

七賢を偲ぶ会 ①

五十嵐 篤 雄

昨年は岳兄達が7人も逝去するという忌わしい年でした。故人になった7人の供養とご遺族をお慰め申しあげる意味で、有志相集い7月22日、月岡温泉あさひ館で七賢を偲ぶ会をおこないました。

因みに故人の俗名を年令順に記しますと、

藤島玄、森谷周野、山岸栄三郎、斎藤平七、村川経一郎、徳長正、吉野良介の7人です。

七賢について

中国三国時代魏の末期(3世紀半ばころ)河南省北東部の竹林にしばしば集って酒を飲み琴をひき、清談をおこなった7人の人物。

玄さんを偲ぶ

花井 馨

私と玄さんとの交際は、昭和19年、玄さんの登山紀行文が、確か新潟鉄工所の山岳部

に載ったものを読んで取り寄せたのが始めてであった。当時新潟鉄工所工場を弥彦

村上泉の山林に疎開させることで、幹部と弥彦の旅館で懇談したとき、玄さんのことが話題になったことを明確に覚えていいる。自來53年の交際であった。

昭和21年、玄さんの紹介で日本山岳会に入会し、2364の会員番号を貰っている。

これも玄さんの紹介で、朝の7時15分からのNHKに出て弥彦山の話をしたことがあった。当時は進駐軍のプレスコードがあり、内容を書いた原稿を提出して検閲を受けたりした。

その後玄さんとは数多くの山行にご一緒し計り知れぬ程の指導を頂いた。或る年の蓮華温泉から白馬登山のときのことであった。

その後玄さんとは数多くの山行にご一緒し計り知れぬ程の指導を頂いた。或る年の蓮華温泉から白馬登山のときのことであった。

当時の玄さんは山も酒も無類に強く、前日の会食は盛り上ったものであったが、僕は出来上ってしまつて床に入った処、玄さんがウイスキーのボトルを持って追っかけてきた。

たまたま僕は食堂の机の下に逃げたが捕まって相手させられた。お蔭で翌朝の雨中の登山で、天狗の庭あたりで油汗がでて殆んど動けない状況になつて、秀峰の望月さんなどに大変御世話になったことがあった。

今年で第36回を迎えた「弥彦山松明登山祭」の相談を、最初に弥彦神社主脳より受けたとき、真先に玄さん、望月さんに相談した処、お祭りの好きな御両所即座に賛成、今日まで盛大に継続しているの



である。

この行事には玄さんの特別な協力により、日本山岳より著名な岳人が数多く講師として出席され華を添えた。玄さんは前日より講師と共に小宅に宿泊されて、万般を指導され、その熱意には深く敬意をを表する。

理事長をおひきうけして

平 田 大 六

89年4月の評議員会で、思いがけず理事長をおおせつかり、おひきうけすることにいたしました。

新潟県山岳協会は、すぐれた先人の方々による半世紀に及ぶかがやかしい伝統ある団体であります。そのようななかで、私のような浅学未熟な者が重要な役目を持たなければならぬということは、た

平成元年度日山協海外委員総会 及び海外遭難対策研究会報告

海外登山委員会

田 中 純 夫

さる6月10日(土)、11日

(日)の両日にわたって標記

委員総会及び研究会が兵庫県山岳連盟の主管により、神戸市立国民宿舎「神戸摩耶ロッジ」を会場として開催された。昨年の仙台市に続く2度目の地方開催で、参加者は西日本を中心として35名程であった。会場は国立公園六甲山系摩耶山(698m)の頂上にあり、眺望絶佳、夜は1千万ドルの夜景を見おろせる景勝の地であった。

日程第1日目は、まず日山協石塚副会長のあいさつがあり、続いて地元兵庫県山岳連盟副会長より歓迎のあいさつがあった。

会議は神崎委員長のあいさつを受けて、まず最初は大宮求理事より日山協海外委員会のおかれていた現状、及びジャパンカップ、国際岩登り競技会などについて報告があった。

続いて日程上の問題から海外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

続いて海外委員総会となり、報告事項ということで、まず昭和63年度の事業報告が神崎委員長よりなされた。さらに今後の海外登山技術研究会のあり方はどうあったらよいのか、国際岩登り競技会への関わりはどうあったらよいのか、についての意見交換も行なわれた。

続いて平成元年度事業計画、外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

続いて海外委員総会となり、報告事項ということで、まず昭和63年度の事業報告が神崎委員長よりなされた。さらに今後の海外登山技術研究会のあり方はどうあったらよいのか、国際岩登り競技会への関わりはどうあったらよいのか、についての意見交換も行なわれた。

続いて平成元年度事業計画、外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

続いて海外委員総会となり、報告事項ということで、まず昭和63年度の事業報告が神崎委員長よりなされた。さらに今後の海外登山技術研究会のあり方はどうあったらよいのか、国際岩登り競技会への関わりはどうあったらよいのか、についての意見交換も行なわれた。

続いて平成元年度事業計画、外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

続いて海外委員総会となり、報告事項ということで、まず昭和63年度の事業報告が神崎委員長よりなされた。さらに今後の海外登山技術研究会のあり方はどうあったらよいのか、国際岩登り競技会への関わりはどうあったらよいのか、についての意見交換も行なわれた。

続いて平成元年度事業計画、外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

続いて海外委員総会となり、報告事項ということで、まず昭和63年度の事業報告が神崎委員長よりなされた。さらに今後の海外登山技術研究会のあり方はどうあったらよいのか、国際岩登り競技会への関わりはどうあったらよいのか、についての意見交換も行なわれた。

続いて平成元年度事業計画、外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

続いて海外委員総会となり、報告事項ということで、まず昭和63年度の事業報告が神崎委員長よりなされた。さらに今後の海外登山技術研究会のあり方はどうあったらよいのか、国際岩登り競技会への関わりはどうあったらよいのか、についての意見交換も行なわれた。

続いて平成元年度事業計画、外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

続いて海外委員総会となり、報告事項ということで、まず昭和63年度の事業報告が神崎委員長よりなされた。さらに今後の海外登山技術研究会のあり方はどうあったらよいのか、国際岩登り競技会への関わりはどうあったらよいのか、についての意見交換も行なわれた。

続いて平成元年度事業計画、外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

続いて海外委員総会となり、報告事項ということで、まず昭和63年度の事業報告が神崎委員長よりなされた。さらに今後の海外登山技術研究会のあり方はどうあったらよいのか、国際岩登り競技会への関わりはどうあったらよいのか、についての意見交換も行なわれた。

続いて平成元年度事業計画、外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

続いて海外委員総会となり、報告事項ということで、まず昭和63年度の事業報告が神崎委員長よりなされた。さらに今後の海外登山技術研究会のあり方はどうあったらよいのか、国際岩登り競技会への関わりはどうあったらよいのか、についての意見交換も行なわれた。

続いて平成元年度事業計画、外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

続いて海外委員総会となり、報告事項ということで、まず昭和63年度の事業報告が神崎委員長よりなされた。さらに今後の海外登山技術研究会のあり方はどうあったらよいのか、国際岩登り競技会への関わりはどうあったらよいのか、についての意見交換も行なわれた。

続いて平成元年度事業計画、外遭難対策研究会を先にやることになり、尾形好雄理事の司会によって、まず「ストップ・ザ・22」が達成出来なくなったことが報告された。これは1968年から21年間続いている日本隊のヒマラヤ登山での死亡事故の不名誉な記

録をストップしようというところだったのだが、今春ネパール・ヒマラヤのランタン・リルンには出かけた法政大学隊の雪崩遭難による死亡事故で達成出来なくなったのである。続いて群馬県山岳連の八木原

昭明氏よりマッキンリーでの山田昇、三枝照雄、小松幸三、三氏の遭難事故についての概要報告があった。さらにその後をうけて尾形理事からは、直接捜索にあたった立場から捜索隊の報告がなされた。

べて終了し、昼食後解散となった。

なお終了後希望者により摩耶山の下山ハイキングが行なわれ、下山後は神戸登山研修所まで歩いて最後の解散となった。ところでこの登山研修所は、兵庫県山岳連盟が登山についての知識と基礎的な技術習得のため建設したもので、建設後は神戸市に寄附されたものである。その後管理運営につ

集団登山指導問題に思う

杉 本 敏

今年も、苗場山で小千谷南中学校生徒の遭難不明騒ぎ、奈良県下における山中での10数名不明騒ぎ、と集団登山時における遭難が発生した。集団登山においては、小、中学生を含んだ遭難騒ぎが起きやすい。

大人(引率者)の目から見ると、なんとも案な、安全な山中での事故勃発に、対応さえ浮かばず、あきれはて、青ざめて、事故問題の重要性が身にしみてくるということになる。

いでは逆に神戸市から岳連に委託されており、公共施設としての性格から広く利用されているようである。附属の人工岩場をもった3階建の立派なもので、登山についての資料も豊富に備えつけられてあった。

本県にも是非このような施設がほしいものと切に思った次第である。

毎年のように繰り返されるこの種の問題に一考する必要があると思う。

①引率者が大丈夫と思ったコースが、本当に子供達にとつて適していたのかどうか。

②コース全体の状態が、子供達にしっかりと教え込まれていたのかどうか。

③親子での登山と違う、引率者与其他の子供関係のミゾが埋まっていたのかどうか。

かどうか。

⑤引率者1名、生徒10名の割合は適正と言われているが、視野内問題であり、上記に通じるが、危険箇所との安全確認体制がとれたかどうか。

①②と通じるところがあるが②は重要であると思う。事前指導の徹底の問題であり、地形、気象、植物、動物、山歴、生活技術、登山技術等との分野からでも入れることであり、子供達に山の楽しさを教えつつ、山の概要をきちんとつかませておく必要があると思う。

③は以外と親子の関係なら言えることを、集団登山の中では、我慢→無理をする経路を辿りやすいから、個々の子供の仕草の変化をつかんでおく必要がある。

④は全責任を負う引率者の力量の問題である。小、中学校先生方の過密スケジュールでは、登山経験者がどのくらいおられることやら必配である。晴天時に遠足、ハイキングに出掛けるのと訳が違うことを認識してもらわないと、普段と同じ学校生活の延長線上の感覚で引率することは、問題発生が目に見えている。

⑤引率者の人数は多い程良いだろうが、危険箇所の通過のさせ方、力量の違う子供達のレベル認識と対応が適切にとれたかどうか、にかかってくる。

自然の中に子供達を溶け込ませることはぜひやってもらいたい。けれどコンクリート社会、テレビ生活からの環境の違いは、大人が考える程子供達は順応が上手でないことを知っておくべきである。(危険を見い出す目をもたない子供達)

木六山親睦登山案内

日時 平成元年9月30日(土) 夜10月1日(日)

山名 木六山 825・1m

宿舎 村松町上杉川「青少年自然の家」

装備 日帰り秋山装備(雨具、水筒、朝・昼食、他)

会費 1000円(素泊まり料金、通信費)

日程 30日(土) 18時30分受付、19時より懇親会、22時就寝

1日(日) 6時30分宿舍出発(各自の車)→柴倉沢林道車止(登山口)→エンテ

イ小屋→グシの峰→木六山→水無平(昼食)

13時下山開始。

15時解散予定。

申込 ハガキに所属団体名、

参加者氏名、住所、電話、年令等を記入して左記に申し込み下さい。

新潟県山岳協会宛 〒940

長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方

問合せ 矢筈山岳会事務局 村松町下阿弥陀瀬

松尾弘方 電話0250-5815951

勤0250-5817181

(342)

その他 ○宿舍で毛布・枕無料貸出し、床が板場の為マッ

ット必携、シャワー設備有り、食器貸出し有り。

○懇親会の飲食物は、各自地元特産品を持参下さい。

成年女子 北海道へ翔ぶ

第10回北信越国体が、石川県尾口村、吉野谷村、鳥越村と、平成3年に実施される46国体会場を使用して7月28日、30日開催された。

白山一里野を本部にして、高温と喉の渇く戦いは、流れ出る汗でルートがかすむ中、県選手団は健闘した。

1ム枠の中に滑り込み、北海道国体の出場権を獲得した。会員皆様と共に健闘を称えたいと思います。おめでとう。

なお北海道国体は、羊蹄・コセコ山系を中心に9月17日、21日の間実施されます。

奥早出栗守門県立自然公園内、栗ヶ岳7合目の避難小屋、栗ヶ岳ヒュッテが9月3日から10月23日の間に、新築建設に伴い撤去されます。この間、登山者は、小屋の使用が出来

栗ヶ岳 避難小屋 新築工事

なくりますので御協力お願い致します。又この件での連絡は、加茂山岳会事務局、横山さんまでお願いします。

☎025615212798

退会

○アルペンクラブやまびこ
○大和町山の会・岳峽

第10回北信越国体石川大会 新潟県チーム成績

チーム名			成年女子	少年男子	少年女子	成年男子
縦	歩行	15	15	15	15	15
	装備	5	5	5	5	5
	記録	10	10	9	10	9
	天気図	10	6.2	6.6	6.3	5.6
	所要時間	60	39.5	25.9	31.9	41.6
	不足重量	—	0	0	0	0
	採点合計	100	75.7	61.5	68.2	76.2
	順位		2	4	3	4
走	順位得点		35	25	30	25
	定点確認	45	45	35	40	40
	読図	15	12	12	9	15
	所要時間	40	39.215	35.94	34.525	37.05
	不足重量	—	0	0	0	0
	採点合計	100	96.215	82.94	83.525	92.05
	順位		2	4	2	1
	順位得点		35	25	35	40
踏	技術	40	40			40
	所要時間	60	54.0			52.1
	採点合計	100	94.0			92.1
	順位		2			1
	順位得点		35			40
登攀	得点合計		265.915	144.44	151.725	260.35
	順位合計		105	50	65	105
	順位		2	4	2	1
	得点合計		265.915	144.44	151.725	260.35
	順位合計		105	50	65	105
	順位		2	4	2	1
	得点合計		265.915	144.44	151.725	260.35
	順位合計		105	50	65	105
	順位		2	4	2	1
総合成績						

踏査競技においては、成年女子長野、少年男子子、石川、長野が満点を取るなど、他競技でも例年より高得点獲得チームが続出し、北信越のレベルアップが進んでいることが点数に表れた。

新潟県チームは、成年女子が長野チームに続き、北信越2チ